<表紙>

令和5年度　住まい環境整備モデル事業
【課題設定型・事業者提案型】

提案内容の概要

事業名称：多世代にわたる困窮者を受け入れるインクルーシブシェルター

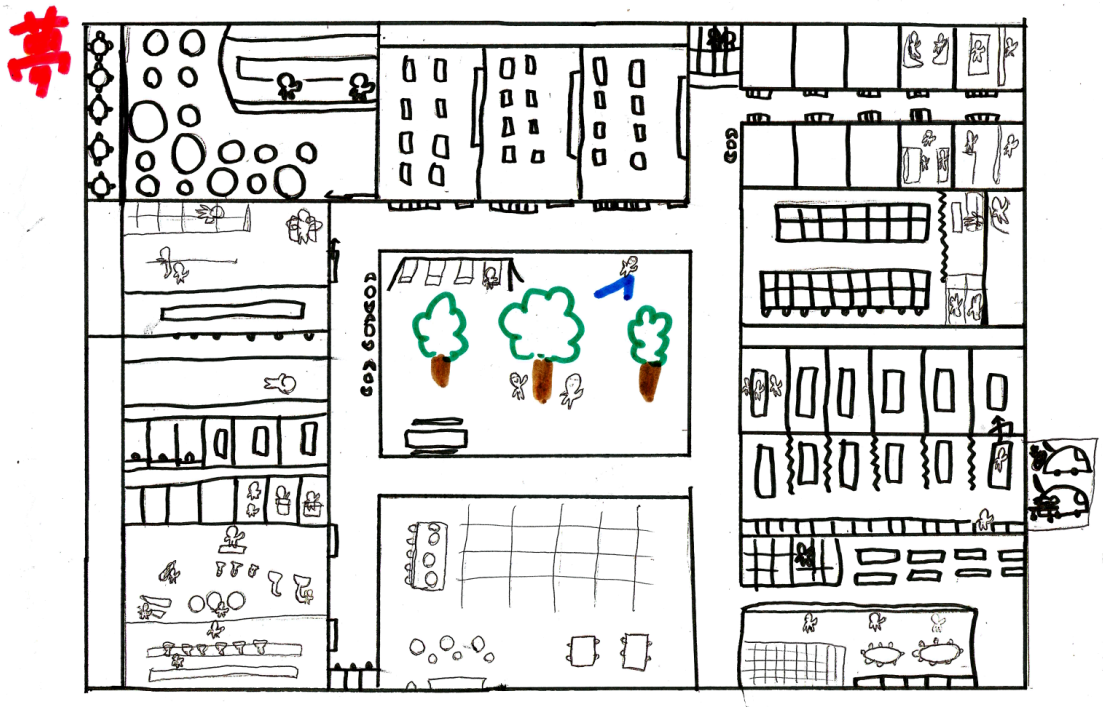
アンドベース

代表提案者：特定非営利活動法人Homedoor

１．これまでの取組

大阪市内だけで年間213人が路上死している現実。
それに対し、行政シェルターは共同生活が基本で
ホームレスの人は知的障害・精神障害を抱える人が多いため難しい。

17歳の時に描いた1枚の施設の間取り図
「とりあえず、あそこに行けばなんとかんる」



1．これまでの取組

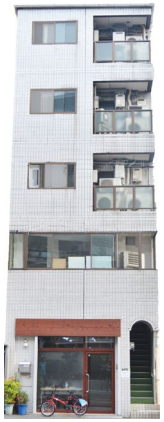
【課題設定型・事業者提案型】

①シェアサイクル「HUBchari」

路上からでも働ける仕事を作りたいという思いで、2011年に開始。大阪市内410ポートで使えるシェアサイクル。雇用者、就労支援提供者のべ200人以上にのぼる。自主事業による安定的な財源が、非営利事業を支えている。

②個室宿泊施設「アンドセンター」

ビル１棟を借り上げた18部屋の個室宿泊施設「アンドセンター」。助成金・補助金に頼らず運営するため、月100万円のランニングコストを毎月1000円を寄付するサポーター1000人を集めて2018年に開設。年間1000人以上の相談者が訪れている。



③カフェ「おかえりキッチン」

2021年にアンドセンターの隣に開業した相談者や宿泊者に月間200食を無料提供するカフェ。フードロス食材を使用し食事を作り、こちらもサポーター500人が運営を支えてくれている。一般向けにも営業しており、コミュニティデザインの手法を取り入れ、地域住民の憩いの場となっており、連日盛況です。

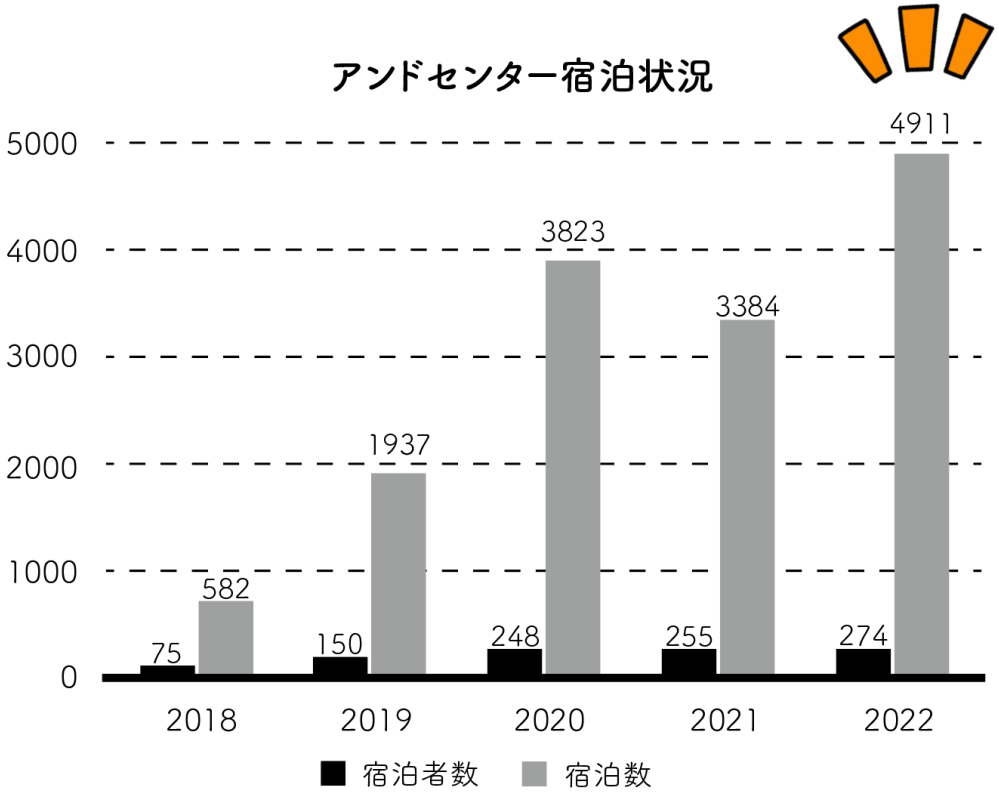
2．現状・問題意識

既存シェルターの課題

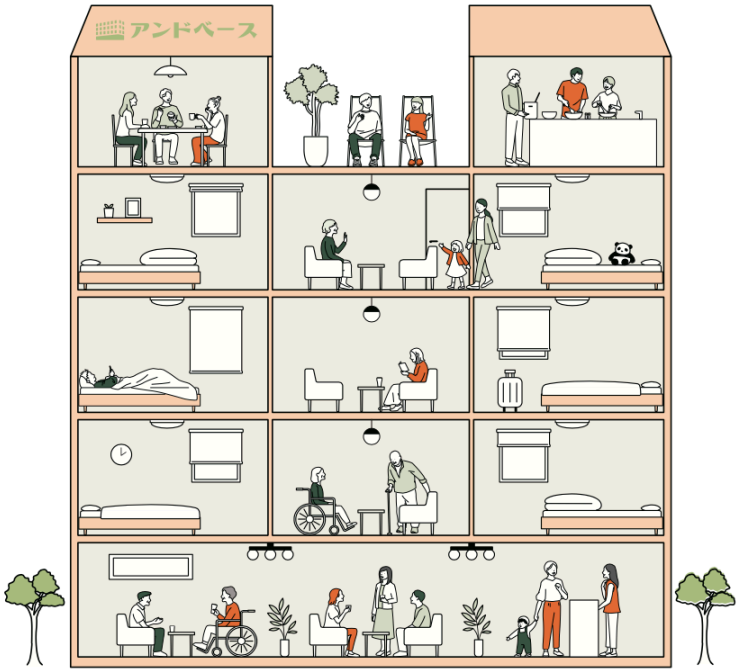
① 急な階段しかないため、足腰が不自由な方の受け入れができない

② 部屋が狭いため、母子等のファミリーでの受け入れができない

③ 慢性的な部屋数不足



3．提案内容



<各フロアの詳細>

1階：共同リビング、教室、相談室2部屋、バリアフリートイレ
2～4階：各階 8 部屋の個室 計 24 部屋
2階：倉庫
4階：女性フロア、女性専用キッチン
5階：共用キッチン、テラス、防災倉庫
※赤字が今回応募した改修箇所、青字が一部改修箇所

運営体制

スタッフ：17名（うち、フルタイム13名）
2022年度収入：2.3億円（事業収入1.5億円、寄付8千万円）　2022年度支出：1.7億円

イニシャルコスト：ホテル購入費用5億円＋改装費用3500万円
→1億円自己資金、1億円補助金、3億円融資、2000万円法人寄付
ランニングコスト：月300万円
→寄付サポーター3000人を集めるキャンペーンを実施中

3．提案内容

インクルーシブシェルターに向けての改修

5億円で購入した元ホテルをシェルターに改修するために…

→・ 共同リビング、教室

・自殺防止対策フェンス等

・相談室2部屋

・防災倉庫

・セキュリティ対策（ルームキ、防犯カメラ）

高齢者・障害者を受け入れるために…

→ ・バリアフリートイレ

女性を受け入れるために…

→・専用フロア設置（エレベーター切り離し工事、女性専用キッチン）

・ 広報（ウェブサイト作成、広告の出稿）

3．提案内容

１階　共同リビング

お互いの存在感が少し意識されつつも、パーソナルスペースを確保される空間づくり

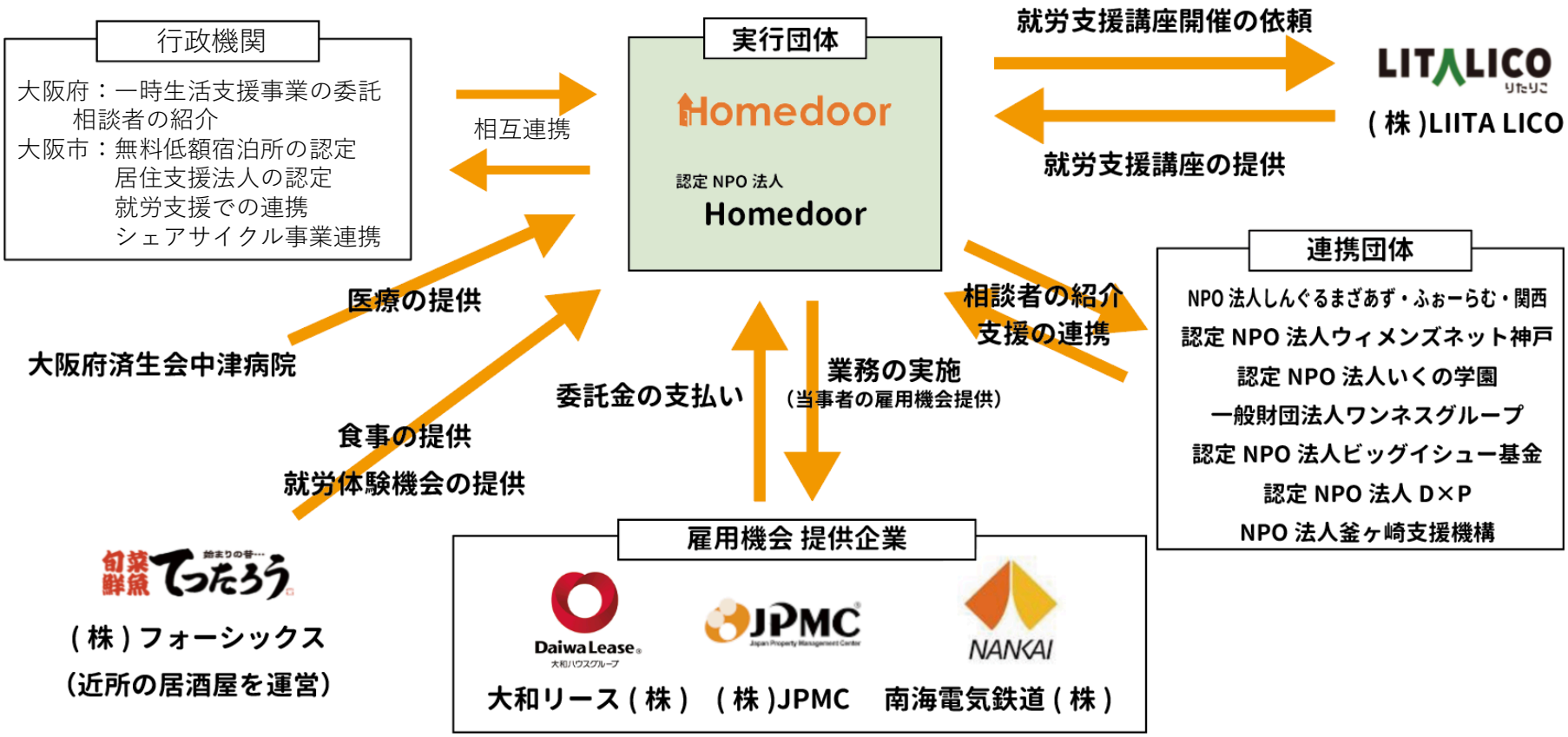
3．提案内容

1階　就労支援

就労支援講座が受けられる教室スペース、可動式の机や間仕切り

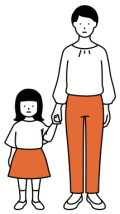
3．提案内容

連携体制

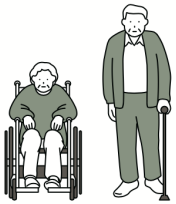

行政機関
大阪府：一時生活支援事業の委託
相談者の紹介
大阪市：無料低額宿泊所の認定
居住支援法人の認定
就労支援での連携
シェアサイクル事業連携
相互連携
実行団体
Homedoor
認定 NPO 法人
Homedoor
就労支援講座開催の依頼
就労支援講座の提供
LITALICO
りたりこ
(株)LIITA LICO
医療の提供
大阪府済生会中津病院
食事の提供
就労体験機会の提供
委託金の支払い
業務の実施
（当事者の雇用機会提供）
相談者の紹介
支援の連携
連携団体
NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西
認定 NPO 法人ウィメンズネット神戸
認定 NPO 法人いくの学園
一般財団法人ワンネスグループ
認定 NPO 法人ビッグイシュー基金
認定 NPO 法人 D×P
NPO 法人釜ヶ崎支援機構
旬菜鮮魚 てったろう
(株) フォーシックス
（近所の居酒屋を運営）
雇用機会 提供企業
Daiwa Lease
大和ハウスグループ
JPMC
NANKAI
大和リース (株)
(株)JPMC
南海電気鉄道 (株)

４．期待される効果

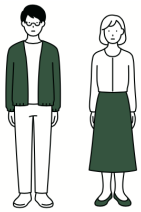
事業効果



＜母子世帯＞
大切な家族と離れずに暮らせる安心・安全なシェルターを提供し、再出発に向けての生活基盤を整えられるようにサポートする。



＜高齢・障害＞
車椅子や障害があっても使えるシェルターでありつつも、それぞれの特性とニーズに応じた地域での生活を叶えられるように準備をお手伝いする。



＜若年層の困窮者＞
家庭環境に困難を抱えた結果、夢やキャリアを描けず非正規雇用を転々とせざるを得ない若者たちを対象に、最貧困化を防ぐ伴走型の就労支援、居住支援を実施する。

波及効果

アンドベースで実現する次の生活に向けての「ゆらぎ」を大切にした長期サポート型の施設をモデルとできるよう、当法人が外部の研究員と協働して行っている研究グループでデータ分析・成果発表を行い、全国に拡げていく。

5．検証方法

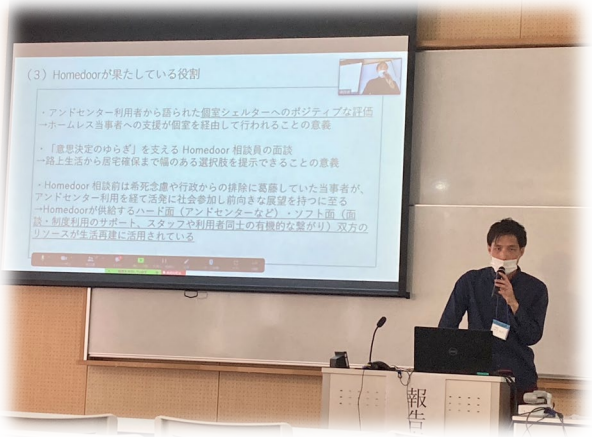
効果検証

①宿泊者アンケートの実施

宿泊満足度を定量的に把握。満足度80%以上を目指す。また、不満点を即時に解消していくため、PDCAを回していく。

②宿泊者ヒアリングの実施

支援が生活に及ぼした影響等をはかるためヒアリング調査を実施。大学教授らと定期的にケース検証を行い、論文にまとめ、学会等での発表を行い、政策提言につなげていく。



③サイト流入率、相談者数、宿泊者数

現在、相談者の中で女性比率は25%と少ないため、新たに女性相談者を獲得するためウェブサイトを作成する。そのサイト流入率、広告のクリック率、広告経由での相談者数、宿泊者数を定量的に把握する。